



埼玉県遊技業協同組合

「埼玉からいじめ・虐待をなくす
ためにキャンペーン」事業

いじめ、虐待のない社会を築くために、



埼玉県遊技業協同組合理事長
山田茂則さん



埼玉県遊技業協同組合前専務理事
南雲 孝さん

現代社会において、子どもを取り巻く環境にはさまざまな問題がある。なかでも子どもたち同士のいじめ、あるいは親や大人からの虐待は、その子どもの現在を暗鬱な色に塗りつぶすばかりではなく、未来を奪いかねない、きわめて深刻な問題である。この問題を学校や家庭だけの問題として片付けるのではなく、地域や社会が全体として取り組んでいかなくては、根本的な解決にはならないだろう。

埼玉県遊技業協同組合（以下、埼遊協）では、創立40周年記念協賛事業として、埼玉新聞社と共同で「埼玉からいじめ・虐待をなくすために」というキャンペーンを企画・実施した。この事業では埼玉県、埼玉県教育委員会、埼玉県警察本部、埼玉大学、埼玉県立大学、埼玉県市長会、埼玉県町村会といった団体が後援し、さらにさいたま地方法務局、埼玉県人権擁護委員連合会、NTT東日本埼玉支店、NTTドコモ埼玉支店が協力するという、県内の関係機関、団体、企業を含めた横断的な連携が見ら

地元新聞社と共同事業を展開

れ、社会的インパクトの強い広範なキャンペーンとなった。

事業の具体的な活動としては、まず、埼玉県内の幼稚園児、保育園児、小学生、中学生の約80万人に対し、いじめや虐待問題の啓発となるキャンペーンハンドブック(A5判、12ページ、カラー)を配布した。配布にあたっては、県内5地区で支部遊技業組合長などによる贈呈式を実施して一般への周知を図ったり、その模様を組合広報誌で紹介するなどの広報活動を行った。

ハンドブックの内容は、ドラえもんアナリストとして知られる富山大学名誉教授の横山泰行さんへのインタビュー記事、元プロボクシング世界チャンピオンで俳優・タレントのガッツ石松さんからのメッセージ、ネットいじめに対する通信事業者の取り組み、SOSミニレターの紹介などを盛り込んだもので、「子どもたちの明るい未来を守ろう」という強いメッセージ性を感じさせるとともに、いじめや虐待などの問題についてみんなで話し合うきっかけになればという願いが込められている。

このハンドブックの発行元ともなっている埼玉新聞社では、『埼玉新聞』本紙内で、いじめ、虐待に関する連載企画を20回にわたり掲載した。そのひとつ、「なくせ いじめの自殺一君に伝えたいこと」シリーズは、NPO法人代表、精神科医、ミュージシャン、俳優などが、いじめに悩む子

どもたちに、自らの体験などを織り交ぜて語りかける内容。もうひとつの「大切な命伝えたい」シリーズは、いじめや虐待の現状や背景、対策、親としての心構えなどをまとめたものである。

また、埼玉遊協では、全日本社会貢献団体機構、埼玉新聞社、全国地方新聞社連合会の主催により、昨年12月13日にさいたま市の浦和コミュニティセンター内にある多目的ホールで開催された社会貢献フォーラム「子どもたちの安心・安全な社会を目指して～社会・地域ができること～」の案内チラシを県内全組合員ホールで56,000枚配布するなど、支援に取り組んだ。

今年3月末には、キャンペーンを総括する目的で、山田茂則埼玉遊協理事長と丸山晃埼玉新聞社社長が社会貢献活動に関する対談を行い、その模様が『埼玉新聞』紙上で紹介された。

社会の関心が高いいじめ、虐待という問題で、地元を基盤とする地方紙と共同でキャンペーンを実施したことは、埼玉遊協の認知度を高めることにつながったのではないだろうか。また、さまざまな社会貢献策があるなかで、社会の公器ともいえる新聞社と共同事業を展開することは、都府県方面遊技業協同組合にとって、今後のひとつの方向性を示すものとして評価できる。



埼玉新聞紙上で掲載された山田茂則埼玉遊協理事長と丸山晃埼玉新聞社社長の対談



キャンペーンハンドブックの贈呈式

社会貢献フォーラムには多くの人が詰めかけた